

校内研修計画

甲州市立塩山北小学校

- 1 研究主題 「主体的に学び、考える児童の育成」
～算数科の授業改善と学習環境の整備を通して～

2 学校課題

塩山北小学校は、塩の山の東に位置し、塩山温泉や向嶽寺など古くから文化的に栄えてきた地域にある。地域や家庭の学校教育への関心は高く、行事等にも協力的である。本校では、昨年度、アクティブ・ラーニングの視点に立った算数科の授業改善を進めてきた。算数科の特質に応じた見方や考え方の育成を図る授業展開を工夫することで、一定の成果を上げることができた。今後もこの成果を生かし、2020年からの新学習指導要領の全面实施に向けて、継続的に算数科の授業改善に取り組み、数学的な見方・考え方の視点から、教科の本質を踏まえた深まりのある授業づくりを進める必要がある。さらに、全国学力学習状況調査の結果分析では、与えられた情報から関係を捉えたり、その理由を書いたりすることに課題があることが分かった。このことから、判断の根拠や理由を明確にさせながら、自分の考えや思いを表現することに取り組む必要がある。そのためには、学習環境を整え、基礎的な学習内容の定着にも取り組む必要がある。

3 主題設定の理由

(1) 社会的な課題から

社会はめまぐるしく変化しており、情報化・グローバル化などの新しい波にのり、高度化・複雑化する諸課題への対応が必要な時代になってきている。これからの社会は「知識基盤社会」と言われ、新しい知識や情報・技術が、経済や文化など社会のあらゆる領域で基盤となる。そうした新しい知識や情報・技術が、経済や文化などのグローバル化を加速させる中で、一つの出来事が広範囲で複雑化し、先を見通すことが難しくなっている。中央教育審議会「審議のまとめ」で示されたように、予測できない時代には、解き方の決まった問題を効率的に解いたり、決められた手続きを効率的にこなしたりするだけでなく、主体的に感性を働かせて、他者と協同しながらより豊かなものを創り上げていくことが求められる。新学習指導要領における具体的な資質・能力の柱は下の3つである。

- ① 生きて働く「知識・技能」の習得（何を理解しているか・何ができるか）
- ② 未来の状況にも対応できる「思考力・判断力・表現力等」の育成
（理解していること・できることをどう使うか）
- ③ 学びを人生や社会に生かそうとする「学びに向かう力・人間性」の涵養
（どのように社会・世界とかがわり、よりよい人生を送るか）

これらの資質・能力を育成するために、各教科の特質に応じた「見方・考え方」の視点から深まりのある授業づくりが求められている。特に、子供たちが「どのように学ぶか」に着目して、学びの質を高めていくためには、学びの本質として重要となる「主体的・対話的で深い学び」の実現を目指した「授業改善の取組を活性化していくことが重要である」としている。今回の改訂が目指すのは、学習の内容と方法の両方を重視し、子どもの学びの過程を質的に高めていくことであるとする。

(2) 学校教育目標の具現化から

学校教育目標『心豊かで生きる力のある子ども』が目指す児童の姿は「思いやりのある心豊かな子ども」「自分で考え主体的に判断して行動できる子ども」「体をきたえ、生命を大切に子ども」である。学校生活のほとんどを占める授業での学びの中で、子供たちが主体的に学ぶことを体験し、多様な人との対話を通じて考えを広げることが、学校生活全体での主体性や思いやりにつながっていくと考える。

(3) これまでの研究から

昨年度は、研究主題を「主体的に学び、考える児童の育成」として、アクティブ・ラーニングの視点に立った算数科における授業改善を通して児童の思考力・判断力・表現力を高めることができた。授業改善の方法として、低学年ブロックが「学び合い」、高学年ブロックが「教えて考えさせる授業」をテーマにし、導入や発問・学習形態を工夫する中で、考えを伝えあい広げる活動を仕組んできた。今年度も昨年度から継続した研究主題に取り組み、

「主体的・対話的で深い学び」の視点から授業改善を行うことで、さらなる資質・能力の向上を目指していけるよう、授業の工夫・改善を図りたい。加えて、学習環境づくりを行うことで児童の実態に応じて効果的な指導が行えるようにしていきたい。

4 研究仮説

学習環境づくりを整備した中で算数科の授業改善を進めることにより、学びの過程の質が高まり、主体的に学び、考える児童が育成されるだろう。

5 研究の具体的内容と方法

(1) 具体的内容

- 算数科の「主体的・対話的・深い学び」の実現のための理論研究
- 授業案の作成，検討及び授業実施
- 授業に関わる環境づくり
- Q-U調査の実施2回（5月・10月）とK13法による結果分析
- 家庭学習と授業を有機的に結びつける取組

(2) 研究の方法

- 講師を招聘しての学習会
- ワークショップ型，授業研究会（1回）
- 一人一実践の参観
- 「話し方名人」「聞き方名人」「声の大きさ」などの「塩山北小スタンダード」作り
- Q-U結果を分析し，アタックシートを活用した学級集団づくり
- 「家庭学習の手引き」「家庭教育・子育てQ&A」を活用した効果的な家庭学習の提案

年間研修計画

檜垣貴子

回	月	日	研究内容	備考	指導主事 招 聘
1	4	11(水)	昨年度研究について 本年度研究の方向性と概要	全体会	
2		18(水)	本年度校内研究の計画と研究の組織づくり	全体会	
3		25(水)	部会研究の方向・授業内容について	部会	
4	5	16(水)	Q-Uの結果分析	部会 (低・高)	
5	6	6(水)	学習会	全体会	○
6		20(水)	部会研究（環境づくり検討・授業案づくり等）	部会	
7	7	11(水)	学習環境部会提案	全体会	
8	8	23(木)	特別支援教育研修会・教育課程環流報告会	全体会	○
9	9	5(水)	部会研究	部会	
10		12(水)	授業研究部会提案（授業案検討）	全体会	
11	10	3(水)	学習環境部会提案 部会研究	全大会 部会	
12		10(水)	授業研究部会提案（授業案検討）	全体会	
13 14		24(水)	授業実践提案 授業研究会	全体会 全体会	○
15	11	7(水)	Q-Uの結果分析	部会 (低・高)	
16	12	12(水)	部会研究のまとめ 本年度研究のまとめ	部会 全体会	
17	1	30(水)	本年度研究の成果と課題	全体会	
18	2	27(水)	研究紀要作成	全体会	
19	3	6(水)	来年度の研究に向けて	全体会	